

成田
歴史
玉手箱

●35回●

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。



西和泉村に贈られた理由が書かれている六論衍義大意の奥書(成田山仏教図書館所蔵)

六論衍義大意 領主から村人に贈られた一冊の道德教科書

今から150年前の安政3年(1856)、西和泉村(現成田市西和泉)に一冊の本が贈られました。本の名前は『六論衍義大意』、贈り主は時の領主田安慶頼(よしより)でした。西和泉村は、延享3年(1746)から明治2年(1868)までの123年間、八代將軍徳川吉宗の二男である徳川宗武(むねたけ)を初代当主とする徳川御三卿の一つ田安家の領地でした。

六論衍義大意とは、中国明の洪武帝(こうぶてい)の教えを説いた教訓書で、琉球(現沖縄県)久米村の程順則(ていじゆんそく)が中国から持ち帰り、薩摩藩主から吉宗に献上後、江戸時代の著名な朱子学者室鳩巢(むろきゆうそう)によって和訳された本です。

六論とは、孝順父母(こうじゆんふぼ)親孝行(おやこやうぎやう)しなさい、尊敬(そんけい)長上(ちやうじやう)年上(としじやう)の人を尊敬(そんけい)しなさい、和睦(わくぼく)郷里(きやうり)郷里(きやうり)の人と仲良(なつら)くしなさい、教訓(きやうくん)子孫(しそん)子孫(しそん)を教え導(しんぱん)きなさい、各安(かくあん)生理(せいり)自分(じぶん)を大切に(たいせいに)しなさい、毋作(むさく)非為(ひゐ)悪い(わるい)ことをしては(しては)いけない(いけない)という、人が人として守(まも)らなければならない(なければならない)16つの教えです。そしてこの本は、全国(ぜんこく)津々(つづ)浦々(ぽら)に道德(たうてき)の教科書(きやうこ)として普及(ぱいき)しました。

このほど建立された碑の裏には、この本がなぜ西和泉村に贈られたかが記されています。江戸に送る年貢の運送費の負担が重く困っていたとき、用立ててくれた田安家に恩義を感じ、村

では領主の誕生日を特別な日と定め、氏神様に田安家の繁栄を祈りました。そして村人のためになる本をいただきたいと願い出て、田安家から六論衍義大意が下賜されたのでした。碑文の最後には「世の中に出回っている本だから、粗末にせずよく読み聞かせて良民になりなさい」とあります。

領主と領民の関係は、悪政に苦しむ農民の姿を想像してしまいます。ところが常日ごろから村人を気に掛け、現代人が忘れがちな心の教育を教え導く領主がいたことを物語る貴重な史料です。この本の存在を知った西和泉のみなさんは、深い感銘を受けるとともに郷土の歴史を後世に伝え残そうと、150年を経た今日「西和泉と六論衍義大意」の碑を建立したのでした。



3月15日に完成した「西和泉と六論衍義大意」の碑



編集後記

家計簿がピンチになると、どこかを切り詰めなければと思うときがあります。とくに子どもが大きくなり、いろいろな支出が増えてくると家族を巻き込んで節約に励むことに。しかし、家族全員で暮らしのお金を見直すことで本当

の「豊かな暮らし」を発見することも。成田市の平成16年度の一般会計予算額は、427億円。市民一人当たりに使われるお金は、434,712円で、経費節減を図りながらも市民生活に必要な予算はしっかりと確保しています。